

「総ぐるみ」新聞

NPO総ぐるみ福祉の会主催(7月9日)

「盆栽の楽しみ方」

講師 中村 享先生

すずむ

NPO総ぐるみ福祉の会事務所は日限山4-45-10(八四六一八五〇)
 入会や活動のお問い合わせ先は、事務所または「日限山荘」日限山4-7-1

◆盆栽のルーツ

中国の盆栽は盆景といい、唐の時代に始まったとされ、平安時代末期に日本に伝来したといわれています。ただ、その後中国で盆景は発展せず、日本で盆栽として独自の進化を遂げて、今日に至っています。

◆盆栽の目標

小さい樹木であっても、大木に見えるような姿に作り上げることが、盆栽の目的です。盆栽を育てるためには、土・水・太陽と育てる技術が必要で、完成した盆栽を見て楽しむと共に、育てる過程を楽しむことができます。

◆盆栽を育てる技術

盆栽にする素材の樹木は、種をまいて実生から育てる方法、枝を取り木(枝の一部の樹皮をむき、ミズゴケで包んで水分を補いながら発根させた後に切り取る)する方法などがあります。

昔は盆栽を育てる技術は、師匠宅



に住込みで教わるが多かったのですが、中村さんは30歳頃から本によつて知識を得て、大船の鎌倉街道沿いで「湘南ガーデンセンター」という店を開いて草木を販売していました。

◆海外視察のチャンス

昭和44(一九六九)年、パリで10年に一度開かれる「園芸ショー」に、日本から約60人の視察団が出かけることになりました。

中村さんの父上もそのメンバーの一人でしたが、出発時に体調が思わしくなく、出発をためらっていたので、中村さんが同行を申し出て、2人で出かけました。

パリ園芸ショーの主催者からは、日本から盆栽を出品するように外務省を通して依頼してきました。盆栽協会の理事会でその件が協議されましたが、2年後に大阪万国博覧会の開催が予定され

ているので、盆栽の外国出品はとても無理という結論でした。

◆パリの国際園芸ショー

盆栽と能面作りという趣味を持ち、長年付き合ひのある逗子のつのだ病院(小児形成外科)の院長からは、フランスは芸術の国ですから、変な盆栽を持ち込んでダメですよと言われました。また、宮内庁の人からは、外国人には判らないから、立派なものではなくていいですよとも言われましたが、自分でできる最高の盆栽を出品しました。

パリの国際園芸ショー日本館は、あずき砂利が一面に敷き詰められていて、そこに三尺四方の台を置いて盆栽をのせました。その盆栽の絵葉書がとてよく売れました。

◆私の盆栽修業

父は畑で切り花栽培をしてせり市にかけると共に、私は造園業を行っていました。

私の店「湘南ガーデンセンター」では、鶴見の日本鋼管に花や球根などを販売し、向くようになって、数年がたちました。他の販売品について父親に相談したところ、盆栽家の紹介を受けて、盆栽を仕入れて持参するようになりました。この盆栽はたいへん好評で、すぐ売れてしまう状態でした。

そこで、自分でも盆栽を仕入れて、手入れをするようになりまし。本によって勉強しながら盆栽を覚えていきまし。植替えをして枯らしたことから、植替えるのがとても怖かつたことを覚えています。

横浜公園で今でも5月27日〜6月2日に行われる園芸祭に盆栽を出品するようになり、よいお客もつくようになって、盆栽教室をやつてほしいという要望まで出るようになりまし。大船の鎌倉街道沿いの借地は返却時期が来たので、横浜に移つて、草花販売はやめて、盆栽に絞つて販売を行うようになりまし。

◆海外への盆栽指導に向く

川口市の盆栽道具屋から、アメリカへ盆栽指導に行くように頼まれ、一九七七年友人と道具屋の息子さんの3人で、「INTERNATIONAL BONSAI CONGRESS'77」シカゴに、主任講師として出かけ、以後アメリカには、毎年のように出かけまし。その他、一九九六年はモントリオール盆栽協会招待講師、一九九八年にはE.U.ジャパン・フェスト・ストックホルム主任講師を務めるなど、海外への指導に度々出向まし。

会場からの質問にお答えいただきました。

Q…盆栽はどのように見るのでしょうか？

A…上から見えないで、下から見上げると大木に見えます。

Q…盆栽の年齢はどこで判るのですか？

A…幹の具合によって判ります。また、盆栽には裏と表があり、幹の模様が良く見

えるほう、前傾しているほうが正面です。Q…盆栽として育てやすい樹の種類はありますか？

A…五葉松・真柏などが育てやすいです。

◆講演会参加者の感想

◇「盆栽」の講演を聴いて

池上登士男

最近「Youは何しにニッポンへ」というテレビ番組で、ヨーロッパから来た3人組の男性が、盆栽を観るために日本にやつて来て、埼玉県など日本各地の盆栽栽培地を訪問し、感激している様子を見まし。そのとき「盆栽」が、「お花」や「お茶」等と同じく、日本文化の代表として海外に広まっていることを知り、驚まし。

中村亭さんは海外での盆栽普及に尽力され、英語でも「BONSAI」で通じるようになったのは、中村さんの貢献が大であると思われまし。身近に、そんな方がおられることは誇りです。現在「湘南盆栽教室」の経営は息子さんに譲られたそうですが、今後も元気で盆栽の道を究めていただきたいです。

◇講演会に参加して

岩野すみ枝

盆栽協会の元理事他数々の肩書きをお持ちの中村先生が、若い頃からご自身でコツコツと勉強・努力されたご経験を、ユーモアを交えながらお話くださり、盆栽をとてもし身近に感じることができました。素晴らしい方が近くにいらつしやう、嬉しいです。

◇「盆栽の楽しみ方」の講演会に参加して

小川 祐司(日限山3丁目)

当日は、あいにくの雨模様でしたが、会

場につくと傘用の名札を手渡され、気配りの出迎えに心が温まりまし。

国内はもとより、世界中で盆栽の普及に尽力された実績に基づいたお話はたいへん楽しく、説得力がありました。また、会場に出品された盆栽も素晴らしいものでした。帰り道、「花を愛する人は、心優しい人……」と、思わず口ずさんでしまいました。

◇盆栽に挑戦してみたい

太田 勝也

草花と盆栽の育て方の違いのポイントをきめ細かく教えていただきました。最初の4、5年は失敗を恐れず、素人はまず高価なものではなく、小さな盆栽から始め、枯らすのが当たり前と腹をくくり、すぐやめるのではなく、続けることが必要であるというお話を聞きました。盆栽の素晴らしさは判りながら、距離を置いて素人観賞をしていましたので、講演をお聞きして、盆栽に対する意識が変わりました。「盆栽は誰にも育てられる」という言葉に勇気を得て、挑戦する気持ちになりました。

◇盆栽を育てて楽しむ

鎌倉 妙子

街中に暮らしていた40代の頃、毎年季節の花の鉢植えや盆栽を売りに来て、一鉢ずつ盆栽が増えていきました。姫リンゴ・カイドウ・さつき・五葉松等、身近に四季の観賞ができて、楽しみでした。毎年さつきの花後の選定は大好きな仕事でした。

会場に飾られた数々の盆栽や、映像による紹介、長年にわたつて盆栽を愛情深く見守り続けられている中村先生が、同じ地域にお住まいのことを知つて嬉しいで

8月は、例年通り日限山荘の昼食会を1か月お休みさせていただきます。9月の開催日は上部に記載。